

青果物の栽培者募集について

現在JAでは、農家の所得向上に向けて青果物栽培を奨めています。

白神ねぎ、白神山うど、白神みょうが、白神きゃべつ、アスパラガスを中心に、スナップエンドウ、枝豆、とまと、きゅうり、小なすなどの野菜や生しいたけ、まいたけなどのきのこ類や京ふき、さらに花きのりんどうなどの品目を全国に向けて出荷していますので、お気軽にJAにご相談下さい。

【連絡先】

能代地区
(営農企画課 55-0777、販売課 55-0778)
二ツ井地区(二ツ井営農センター 73-5193)
藤里地区(藤里営農センター 79-1644)

経営試算表 秋田県作物別技術・経営指標一部抜粋

品目名	10a当たり粗収益(円)	10a当たり諸経費(円)	10a当たり所得(円)	労働力(時間)	1時間当たり所得(円)
ねぎ	864,000	601,000	263,000	246	1,069
山うど	370,000	298,000	72,000	212	340
みょうが	410,000	230,000	180,000	342	526
きゃべつ	360,000	282,000	78,000	68	1,147
アスパラガス(促成)	450,000	342,000	108,000	267	404
アスパラガス(露地)	330,000	230,000	100,000	282	355
スナップエンドウ	520,000	260,000	260,000	460	565
小なす	510,000	390,000	120,000	477	252
京ふき	150,000	113,000	37,000	90	411
りんどう	800,000	500,000	300,000	650	462

白神ねぎ

○長ねぎ栽培について
越冬早取り苗の管理ポイント
・温度管理
本葉1枚展開しているの、ハウス内10℃前後に保ちます。

12月下旬以降、外気の最低気温がマイナスと予想される場合は、夜間のみトンネル被覆をする。
※余計な被覆は、軟弱徒長やカビ発生の要因となるため注意。
・水管理
12月以降は、培土が乾きにくくなっているため、灌水の間隔は培土の乾き具合をみて行います。
灌水は日中に行い、温度が低下する夕方は避ける。

白神山うど

○山うど栽培について
12月に入り、ハウスへの伏せ込み作業が本格化していますが、品種特性と伏せ込み時の留意点を把握し、収穫に向けて万全な作業を行って下さい。

・伏せ込み床は、ハウス内に融雪水が入らないよう明渠などで排水対策を万全にする。
・伏せ込み後、加温を開始してからは温度管理に十分注意して下さい。芽の位置に温度計を設置し、芽が動くまでは20℃以下で管理し、芽の動きが確認されたら18℃～15℃と徐々に温度を下げるよう管理し、高温による腐敗が出ないように、こまめに温度を確認して下さい。

アスパラガス

○アスパラガス栽培について
掘りつつアスパラガス株をハウスに伏せ込みましょう。ベッド枠を作り、電熱線を敷きましょう。
1坪あたり150W以上にしてください。株養成10aで10

坪になります。
並べながら土を入れていき、株の上からも土をかぶせて芽が隠れるようにしましょう。
最終的に芽の部分が18℃くらいになるように加温しましょう。急激に温度を上げるとアスパラガスに痛みが生じますので、ゆっくりと加温しましょう。

今年度JAあきた白神管内で行った除草剤試験の紹介

1、カイリキZ1キロ粒剤

- 特長
 - ノビエに対する長期残効性
やっかいな「後ビエ」に困っている方にもおすすめ!
 - 主要雑草に対して2つ以上の成分が効果を発揮
各種雑草(ノビエ、ホタルイ、オモダカ等)に対して安定した除草効果が期待できます。
 - オモダカ、クログワイの塊茎形成を抑制
難防除のオモダカ、クログワイの「いも」まで効くので、次年度の発生量が少なくなります。
 - 近年問題のイボクサを抑制
イボクサ抑制で稲刈り作業をスムーズに!
 - 除草成分「テフリルトリオン」を増量
ホタルイ、オモダカ、イボクサ等の広葉雑草への効果が強化されています。
- 試験結果について
 - ・昨年はフロアブルとジャンボ剤でしたが今年は1キロ粒剤での試験でした。
 - ・今年は出穂期頃からノビエの発生が見られた圃場が多かったのに対して、試験区ではほとんど見られませんでした。また、イボクサ・クサネムなどの特殊雑草にも効果があり、田植同時散布した圃場では葉害も見られませんでした。また、無人航空機(無人ヘリ、ドローン)での散布も可能です。



(能代地区)



カイリキZ区はノビエの残草なし



隣接圃場区は出穂期にノビエが多発



1キロ粒剤・フロアブル・ジャンボ

2、ジャスタ1キロ粒剤

- 特長
 - ☆殺草スペクトラムが広い
 - ・ALS阻害剤抵抗性雑草を含む広葉・カヤツリグサ科雑草に有効です。
 - ・特にオモダカ、コナギ、ホタルイ等に対して高い効果が期待できます。
 - ☆処理適期幅が広い。
 - ・一発処理剤として十分な残効を有します。
 - ・田植同時処理に適用可能です。
 - ☆新規有効成分サイラ(シクロピリモレート)を有する。
 - ・白化作用を示し、他の白化剤と高い相乗効果を示します。
- このような方にお勧めです。
 - ・オモダカやコナギ、ほふく性雑草(イボクサ、キシユウスズメのヒエ)が多く困っている方。
 - ・田植同時処理で散布している方。
 - ・葉害をきにされている方。
- 試験結果について
 - ・試験薬剤は新規有効成分サイラとピラゾレートの相乗効果で、抵抗性雑草のオモダカ、ミズアオイホタルイ等に高い効果がありました。また、管内で今年多かった畦畔侵入雑草のイボクサにも白化作用を示しておりました。
ノビエの3.5葉期までの使用時期なので、田植後に余裕をもって散布できます。



(能代地区)



(6月5日田植、6月14日散布、7月8日撮影)

※詳しい使用方法については、経済課または営農指導員までお問い合わせください。